

金沢区地区別データ集

データde金沢シーサイドタウン

DATA de KANAZAWA

目次

1. 地区の概況———1
2. 町丁別人口世帯の動向——2
3. 地域の施設等の分布状況——3
4. 年齢別人口と人口移動——4
5. 世帯の状況と居住歴——6
6. 地区の特徴と動向——7



金沢区幸せお届け大使
ぼたんちゃん

令和7年1月発行

金沢区地域振興課地域力推進担当

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成。

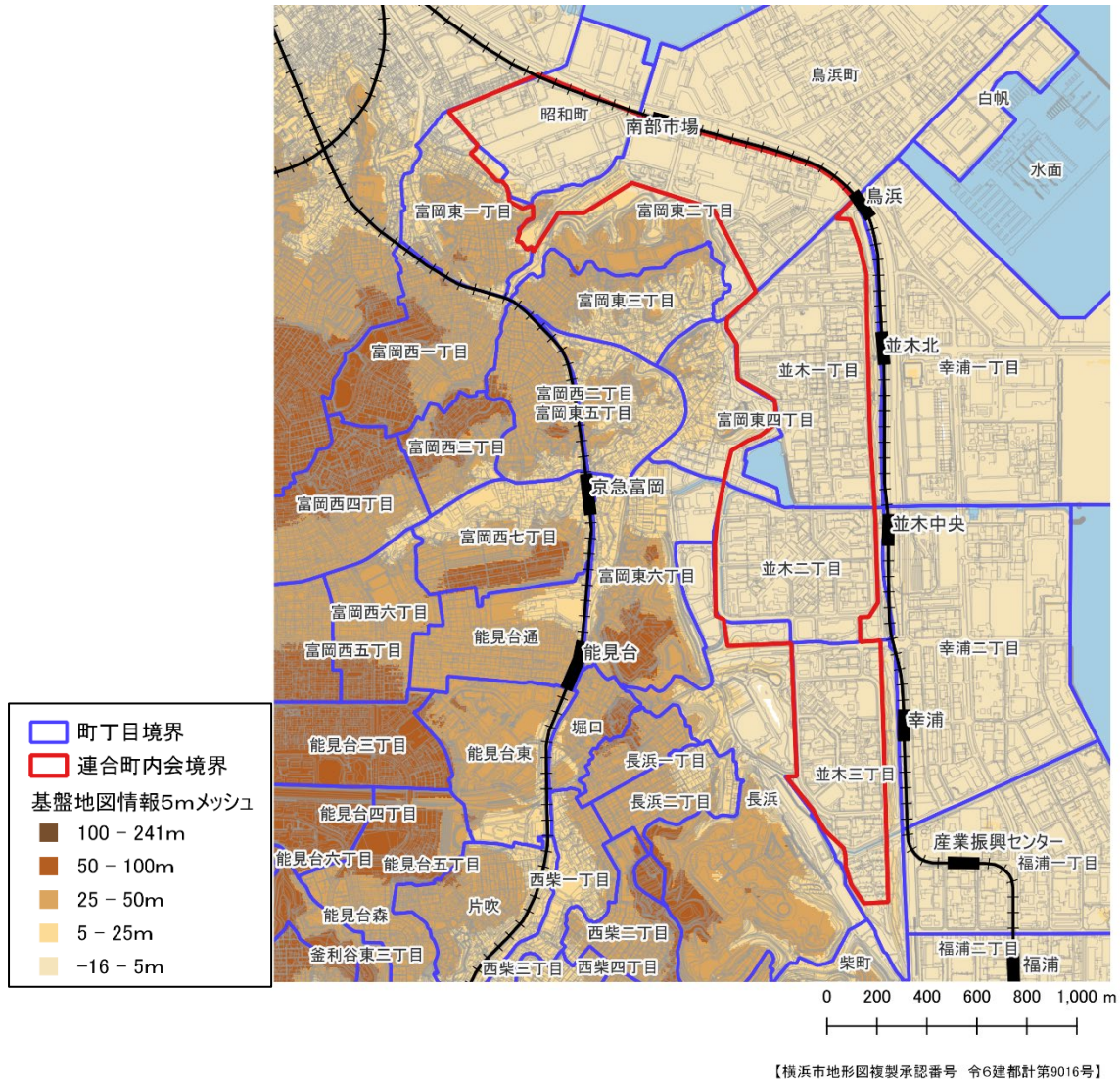


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

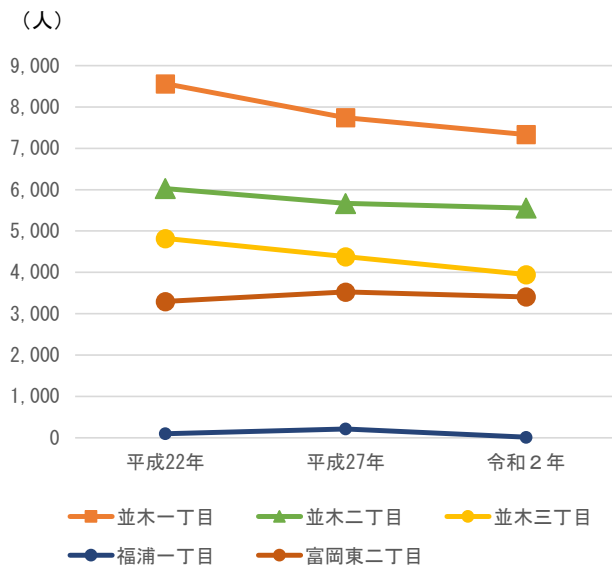
	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～27年 増減数	平成27～ 令和2年 増減数	平成27年 比率	令和2年 比率	令和2年 金沢区比率	令和2年 横浜市比率
人口 (人)	22,985	21,549	20,323	▲ 1,436	▲ 1,226	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳 (人)	2,559	2,290	1,998	▲ 269	▲ 292	10.6	9.8	10.8	11.7
(内0～4歳) (人)	904	767	513	▲ 137	▲ 254	3.6	2.5	3.7	4.4
15～64歳人口 (人)	15,524	12,264	10,046	▲ 3,260	▲ 2,218	56.9	49.4	57.4	61.3
(内20～24歳) (人)	1,166	834	665	▲ 332	▲ 169	3.9	3.3	5.5	5.3
(内25～39歳) (人)	5,044	3,915	2,031	▲ 1,129	▲ 1,884	18.2	10.0	13.6	16.5
65歳以上人口 (人)	4,854	6,945	7,994	2,091	1,049	32.2	39.3	29.5	24.4
(内65～74歳) (人)	3,266	4,587	4,333	1,321	▲ 254	21.3	21.3	14.4	11.6
(内75～84歳) (人)	1,181	1,822	2,891	641	1,069	8.5	14.2	10.5	8.8
(内85歳以上) (人)	407	536	770	129	234	2.5	3.8	4.5	4.0
世帯数 (世帯)	9,136	9,063	8,975	▲ 73	▲ 88	-	-	-	-
平均世帯規模 (人/世帯)	2.52	2.38	2.26	-	-	-	-	-	-

*国勢調査による(各年10月1日現在)。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「国勢調査」による(各年10月1日現在)。

図2 町丁別人口の動向



金沢シーサイドタウン地区には、令和2年10月現在、20,323人が暮らしています。世帯数は、8,975世帯、平均世帯規模は、2.26人/世帯です。(表1参照)

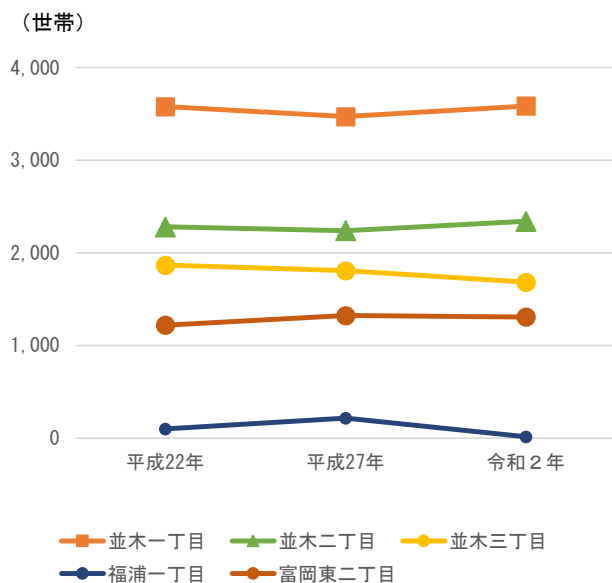
地区全体としては、平成22～令和2年の期間で見ると、人口、世帯数ともに減少傾向が見られます。(表1参照)

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成22年の2.52人/世帯から令和2年には2.26人/世帯となっています。(表1参照)

令和2年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、39.3%で横浜市全体(24.4%)、金沢区全体(29.5%)をとともに上回っています。平成27年からの5年間で高齢化率は7.1ポイント上昇^{*}していることから、急激に高齢化が進んでいることが分かります。

0～14歳の人口(年少人口)、15～64歳の人口(生産年齢人口)は減少が続いています。高齢者人口のうち特に75～84歳が増加しており、平成22年の1,181人から令和2年には2,891人となっています。(表1参照)
^{*}金沢区の高齢化の上昇は2.8ポイント、横浜市の高齢化の上昇は1.1ポイントとなっています。

図3 町丁別世帯数の動向



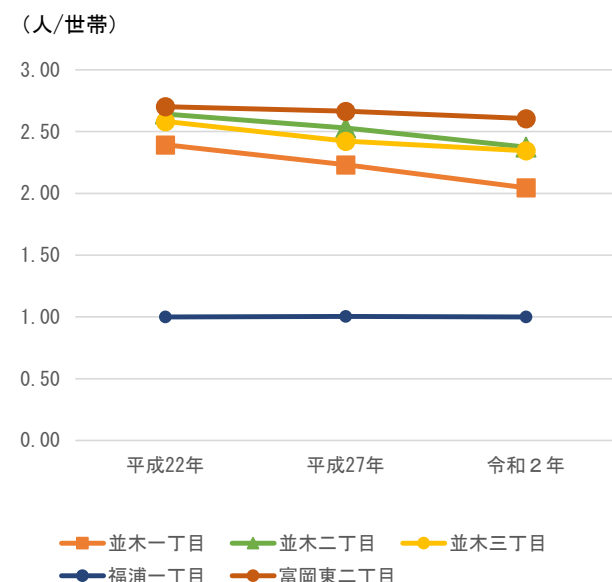
金沢シーサイドタウン地区には、11町丁が含まれています。

このうち、並木一～三丁目と富岡東二丁目住宅市街地です。その他は工業・流通系の市街地で居住人口はほとんどありません。

並木一～三丁目は人口の減少が続いています。富岡東二丁目は微増となっています。(図2参照)

世帯数は並木一丁目、並木二丁目、富岡東二丁目は平成27年から令和2年に微増していますが、並木三丁目は緩やかに減少が続いています。平均世帯規模はいずれの町丁も縮小傾向が見られます。(図3,4参照)

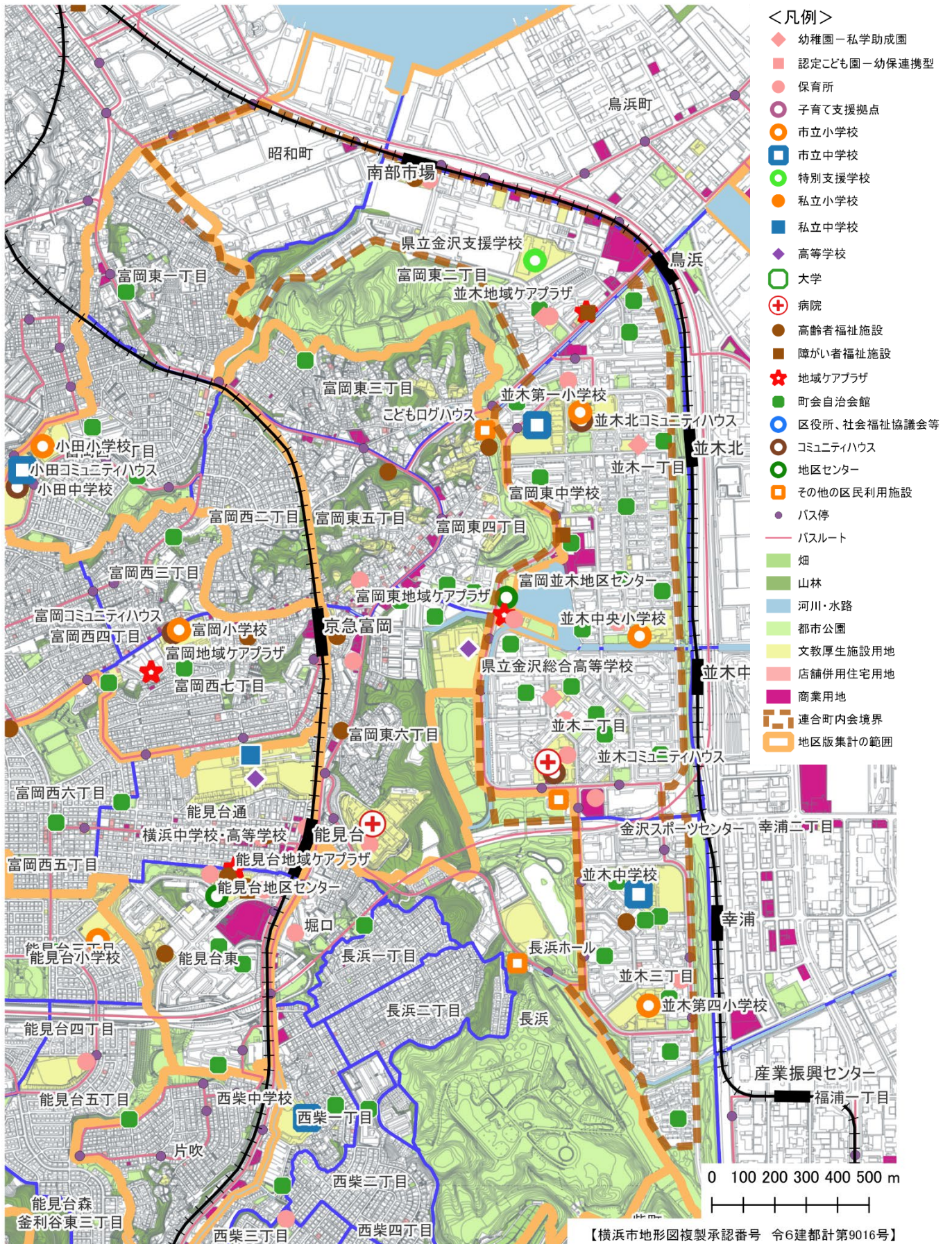
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は国勢調査による（各年10月1日現在）。
 *移動人口は平成30～令和5年の人口移動集計結果による。

図6 年齢5歳別の人口の変化

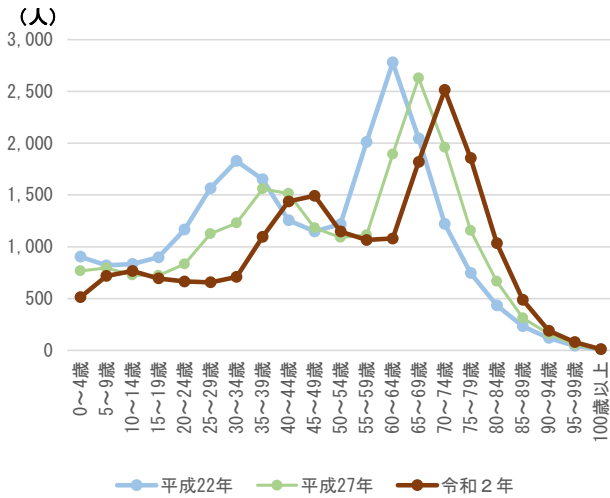
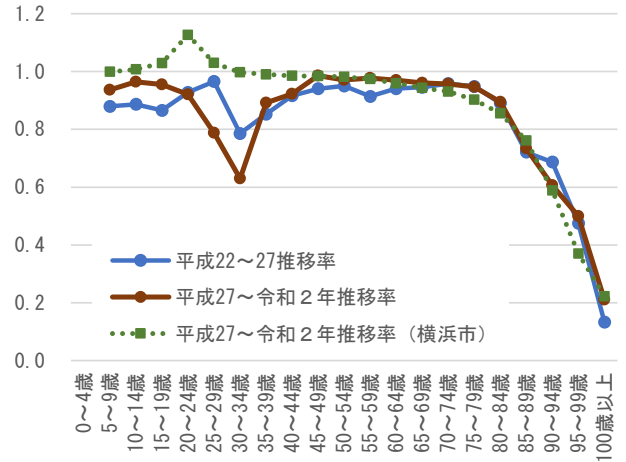
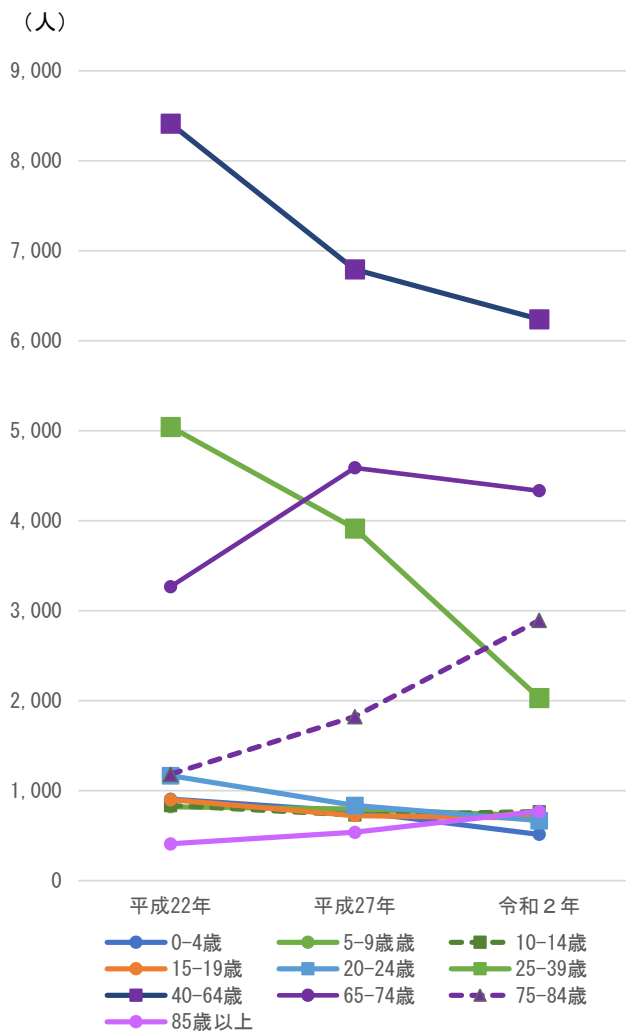


図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

図8 年齢別人口の変化

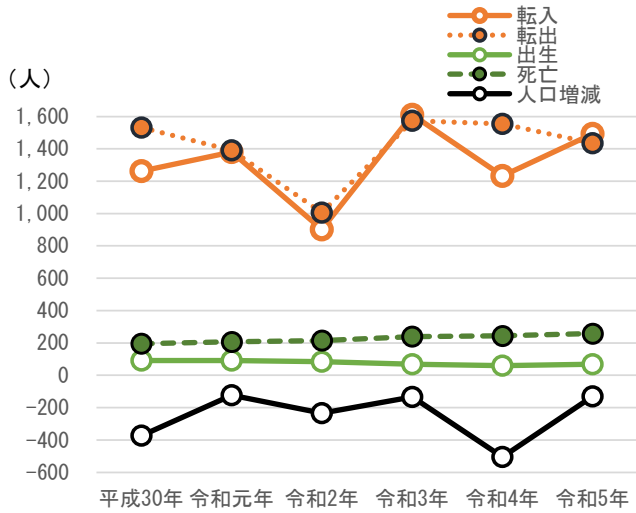


令和2年の金沢シーサイドタウン地区の年齢別人口は、70～74歳の年代と、その子ども世代にあたる40代が多い年齢構成になっています。(図6参照)

推移率をみると、平成22～27年はいずれの年代も1.0を下回っています。特に平成27～令和2年では30～34歳の転出が多いことが分かります。(図7参照)

年齢別人口の変化をみると、働き盛り世代の40～64歳、子育て世代である25～39歳が大幅に減少しています。75～84歳の増加が大きく、高齢化が進んでいることがわかります。(図8参照)

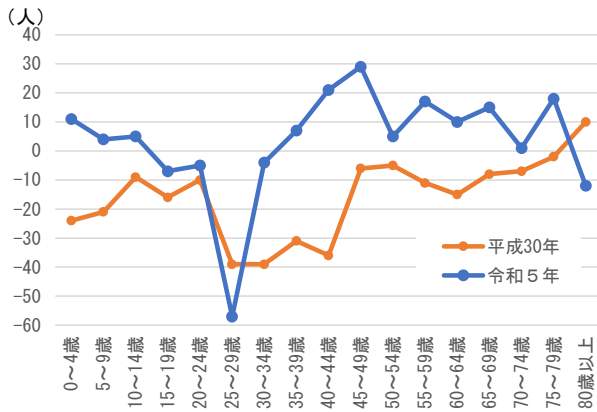
図9 人口移動の動向



平成30年から令和5年の人口移動の動向をみると、令和2年を除く各年で1,200～1,600人の転出入があります。令和2年の転出入は1,000人前後となっています。令和4年は転出が転入を上回り、200人以上の人口減となりました。出生、死亡の自然増減はほぼ安定しています。(図9参照)

平成30年と令和5年の年齢5歳別社会移動人口の動向をみると、平成30年は25～44歳と減少した年代に幅がありますが、令和5年は25～29歳で大きく人口が減少していることが分かります。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による(各年10月1日現在)。

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

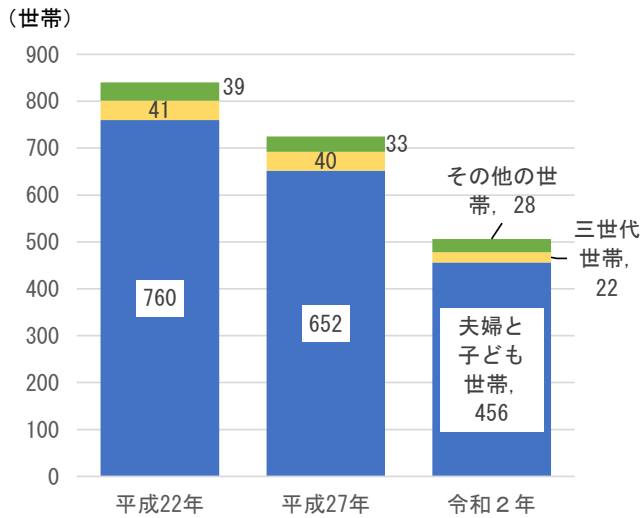


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

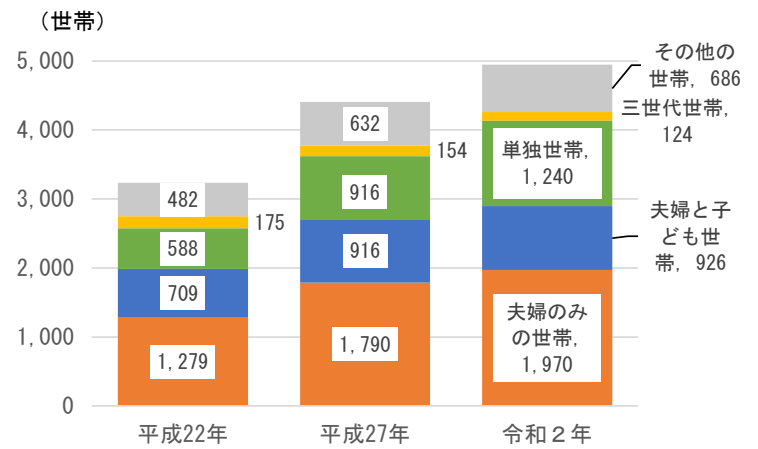


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

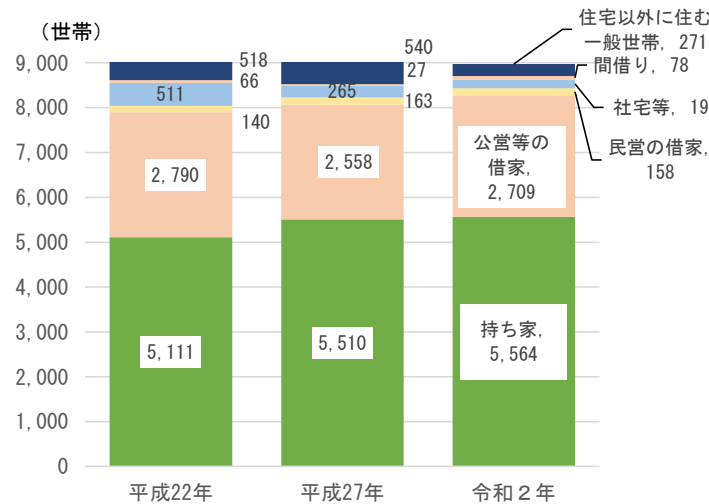


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合 (R2)

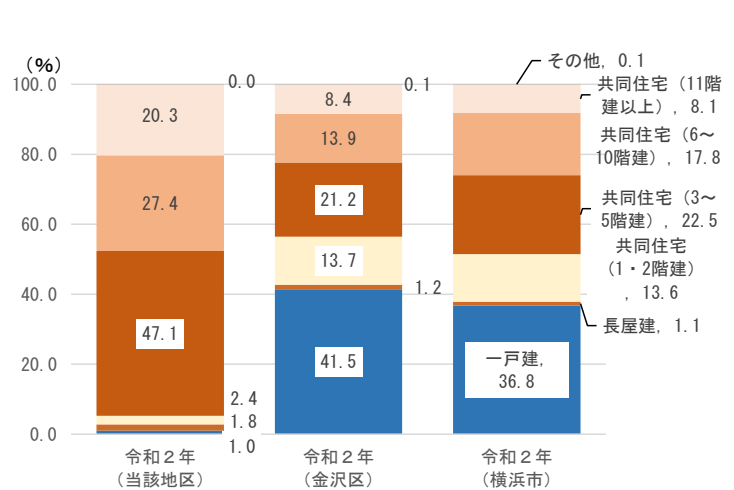


図 15 規模別世帯の動向

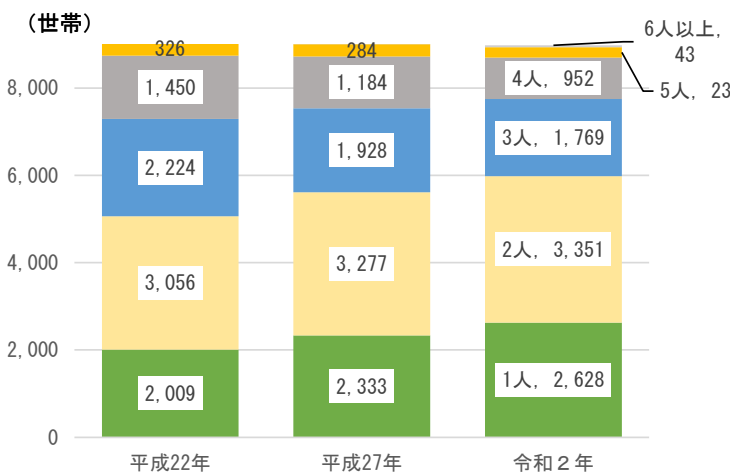
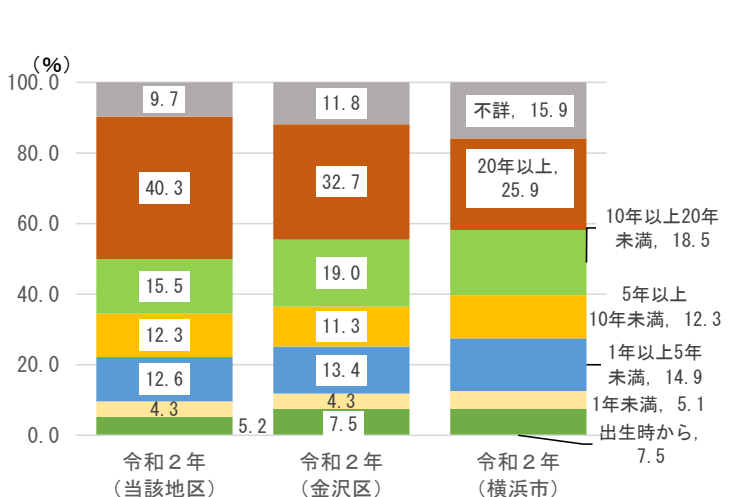


図 16 居住歴別人口の割合 (R2)



6. 地区の特徴と動向

金沢シーサイドタウン地区は、区の臨海部の埋め立て地に工業・流通系の区域と住宅地からなる金沢シーサイドタウンを中心とした地区です。

平成 22 年から令和 2 年の 6 歳未満の子どものいる世帯は減少傾向が見られ、平成 22 年の 840 世帯が令和 2 年には 506 世帯となりました。令和 2 年の 6 歳未満の子どものいる世帯のうち 90.1%が核家族になっている事がわかります。(図 11 参照)

65 歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向が見られます。令和 2 年の 65 歳以上の高齢者のいる世帯 4,946 世帯のうち、39.8%が夫婦のみの世帯、25.1%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の 64.9%を占めています。(図 12 参照)

住宅の所有関係別では、令和 2 年は持家に住んでいる世帯が 5,564 世帯で最も多く、微増傾向にあります。次いで多いのは公営等の借家に住む世帯で、令和 2 年は 2,709 世帯あります。(図 13 参照)

令和 2 年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、3～5 階建の共同住宅が最も多く 47.1%となっています。この割合は金沢区全体(21.2%)と比べると 25.9 ポイント高くなっています。6～10 階建共同住宅(27.4%)、11 階建以上の共同住宅(20.3%)が続いており、共同住宅を合計すると 97.2%と、共同住宅が中心の地区であることが分かります。(図 14 参照)

金沢シーサイドタウン地区は金沢区全体に比べ、比較的居住期間が長い人の割合が多い傾向が見られます。令和 2 年時点で居住期間「20 年以上」が 40.3%で金沢区全体の 32.7%を 7.6 ポイント上回っています。(図 16 参照)

人口全体の動向と推計をみると、平成 22 年から令和 2 年は人口が減少し、令和 7 年以降も同様に減少するものと推計されています。(図 17 参照)

今後は高齢者人口の増加が続き、年少人口、生産年齢人口は減少するなど、人口構造に変化が見られると推計されます。令和 2 年時点で 65～74 歳の人口が 85 歳以上になる令和 12 年以降は、85 歳以上の人口が人数、割合ともに増加する見込みです。(図 17, 18 参照)

図 17 人口の動向と推計

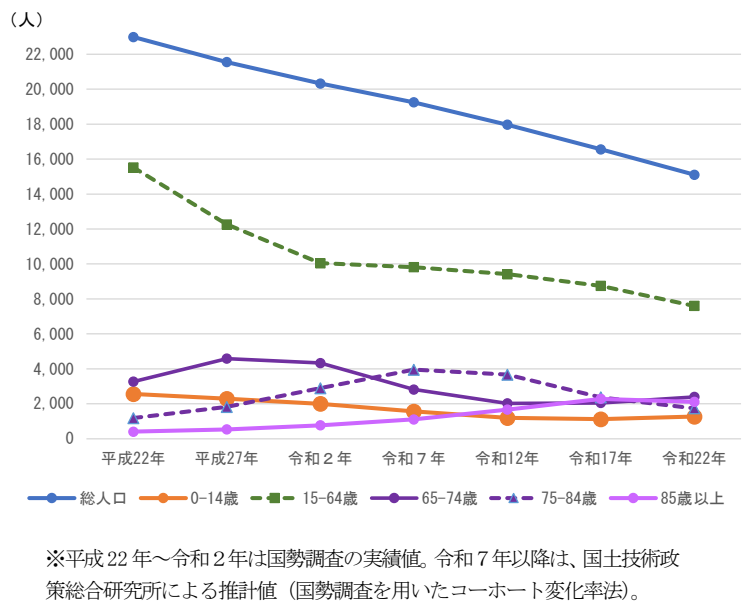


図 18 人口の動向と推計 年齢別比率

